

| | | | | | |
|----------------|---|-----------|-----------|-------|------------------|
| 学校 教育 目標 | 「みとめ合い、つながり合い、ささえ合い、わたしたちの未来を創ろう 三ツ沢の子」 【知】基礎・基本を身に付けて主体的に思考・判断・表現するとともに、知恵をはたらかせて生きる力を育てます。 【徳】自他のよさを認め、相手の立場や気持ちを思いやって行動する力を育てます。 【体】望ましい生活習慣や楽しく運動する習慣を身に付け、心身ともにたくましく生きる力を育てます。 【公】自分の役割と責任を自覚し、他者と協働してよりよい社会を創る力を育てます。 【開】自他の違いを受け止めながら、多様性を大切に、ともに生きていく力を育てます。 | | | | |
| | 創立 90 周年 | 学校長 高木 伸之 | 副校長 岡田真知子 | 2 学期制 | 一般学級：25 個別支援学級：4 |
| 学校 概要 | 児童生徒数： 840 人 主な関係校： 松本中学校 横浜翠嵐高等学校 | | | | |

| | | |
|------------------------|-------------|--|
| 教育課程全体で 育成を目指す資質・能力 | 松本中 ブロック | 小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組 |
| | | <p>松本中学校 南神大寺小学校 三ツ沢小学校</p> <p>まちやひとと温かくつながり、みとめ合い、みらいを拓く子ども</p> <p>①9年間で育てる資質・能力を意識した授業づくりや評価を含めたカリキュラム作りを行い、共有する。 ②自分も人も大切に、共に高め合う心を育むために、自己肯定感や自己有用感を意識した児童・生徒の交流を目指す。 ③各教科等を、9年間で学ぶ意義や育成を目指す資質・能力を明確化することで、「松本中ブロック小中一貫カリキュラム」としてまとめることをめざす。</p> |
| 〈主体的に未来を創る力〉 | | |

| | |
|----------------|---|
| 中期 取組 目標 | <p>○家庭、地域、関係機関との連携を深め、子どもたち一人ひとりが様々な「ひと、もの、こと」とのつながりを実感し、大切に、創り上げていく学校づくりをめざします。</p> <p>◇ 「わかる授業」「魅力ある授業」「探究・協働の授業」の展開と汎用的能力を育成します。</p> <p>◇ 人権尊重の精神を基盤とする豊かな心の育成を行います。</p> <p>◇ 個に寄り添った児童理解と組織的な児童指導を行います。</p> <p>◇ 集う人々による学びの集合体としての学校づくりを進めます。</p> |
|----------------|---|

| 重点取組分野 | 具体的取組 |
|-----------------|---|
| 知 生きてはたらく知 | ①「学力向上アクションプラン」の改善に向けた分析会議を行い、「教えて考えさせる授業」づくりのための授業改善を実践する。②「個別最適な学び」「協働的な学び」の充実を図るとともに、教育DXによる身に付けた知識や技能を使ってよりよく課題を解決していく力を育む。 |
| 担当 教育課程部 | |
| 徳 豊かな心 | ①学校行事等のもつ意義を再検討し、「非認知能力の育成」を視点に他者とのコミュニケーション場面の充実を図る。②学校生活における様々な場面で、児童一人ひとりが自尊感情を豊かにし、自己有用感もち、他者理解をスムーズに行うことができるような教育環境を築く。 |
| 担当 特活・人権部 | |
| 体 健やかな体 | ①学校教育活動全体で、健康教育の取組を積極的に進めていく。②担任を中心に、養護教諭、学校栄養教諭と連携し、児童一人ひとりの健康な生活習慣の確立と食育の充実を図る。③体力、運動能力の状況を把握し、体育科学習を中心として学校生活全体の中で健康・体力の向上を図る。 |
| 担当 体育部・食育部 | |
| 公 公共心と社会参画 | ①「地域を学ぶ、地域で学ぶ、地域に学ぶ」ことやキャリアパスポートの活用を通して、家庭や地域における役割や働くことの意義を理解させる。②学習活動において様々な分野で活躍する人や身近な尊敬できる人との出会いなどを通して、自分らしい夢や目標をもち、生き方を考えようとする態度を育てる。 |
| 担当 教育課程部 | |
| いじめへの対応 | ①誰もが安心して参加でき、自尊感情を高める授業づくり・集団づくりを進めていく。②人権教育の中で、誰もが安心して豊かに生活できる学校づくりを進めていく。③全教職員での児童理解に関する組織的な情報共有を行っていく。④いじめ防止基本方針に基づいた取組を進める。 |
| 担当 児童指導部 | |
| 人材育成・組織運営(働き方) | ①キャリアステージに応じた研修体制を構築し、メンターチームについてはミドルリーダーが講師となって月1回の活動を継続して行う。②次年度の校務分掌における主要なポストを事前に通告し、実践的な意識を高める。③業務のスリム化を図り、職員の働き方改革を推進していく。 |
| 担当 教務・メンターチーム | |
| 未来を拓く志 | ①YICAや国際理解教室での学習活動を通し、自分の思いや考えを臆することなく相手に伝えようとするコミュニケーション力を育む。②外国籍および外国につながる子どもたちのアイデンティティを尊重し、多様性を大切に育てる。 |
| 担当 YICA,国際教室 | |
| 特別支援教育 | ①一人ひとりのニーズを踏まえて目的を明確にし、年間指導計画や個別の指導計画に位置付け、全職員で共通理解する。②モジュール学習や補充的な学習などを柔軟に取り入れた教育課程の編成や、情報機器の活用や教材・教具の工夫等の配慮を行う。 |
| 担当 特別支援部 | |
| 児童生徒指導 | ①専任を中心としたネットワーク機能の充実を図り、丁寧な個に応じた指導を行う。②学校生活のルール遵守が図れるよう「スタンダード」の日常的な確認を行う。③毎月、全体で児童理解の共有の場をもち、チームでの指導の基盤を整える。④Y-P等を通して、学年チームで多角的な児童理解を実践する。 |
| 担当 児童指導部 | |
| 地域連携 学校運営協議会 | ①中学校ブロックで学校運営協議会をもつ強み(9年間を通した子どもの見守り、地域コーディネーターを核とした地域学校協働活動、PTAと地域が一体となった学校支援 等)を最大限に教育活動に活用する。②運営協議会で得られた情報や意見、評価を活用し、学校運営に反映する。 |
| 担当 総務部・教務部 | |